

# 知ってました？

## 10年後には、ロボットに置き換えられている職業があります。

「10〜20年後には、現在の日本の労働人口の約半数が就いている職業を、人工知能(AI)やロボットなどに置き換えることができる」。これは、昨年1月に国内の研究機関とイギリスの研究者が共同発表した調査結果です。

抽象的な概念の創出や人間同士の意思疎通が求められるような職業は代替が難しいものの、秩序的・体系的な動きが続く職種については、比較的早期にAIやロボットへの置き換えが進むと予測されています。

一方で、「職場に導入されたロボットの管理」といった新たな職業が生まれたり、従来から存在する職業においても情報技術(IT)に関する知識が必要となったりすることも予想されます。

町でも、整備した高度情報通信基盤を最大限に活用して、「サテライトオフィスの誘致で創出された雇用に対応できる人材」や「自らIT分野で起業する人材」といった「IT人材」の育成を目指しています。

AIやロボットといった次世代の技術の発展は、蒸気機関・電気・コンピュータの発明に続く「第4次産業革命」とも呼ばれ、今後の私たちの、特にこれから大人になっていく子どもたちの未来に、大きな変化をもたらしていくことは確実です。



**Check! 「職業のAIやロボットへの代替可能性」**(野村総合研究所発表)

可能性が高い職業: 事務員、レジ係、警備員、タクシー・路線バス運転手、銀行窓口係、受付係、ホテル客室係、建設作業員、スーパー店員など。

可能性が低い職業: 医師、学校教員、研究者、観光バスガイド、美容師、グラフィックデザイナー、俳優など。

## 3年後には、全小学校で「プログラミング教育」が始まります。



▲昨年12月には、若者交流センター「奥流」にて「ITキャンプ」が開催され、町内の小中学生20人が一足早くプログラミングを学んだ。

急速に情報化が進展する社会の中で、子どもたちには、情報や情報手段(コンピューターやネットワーク)を主体的に選択し活用していく能力が必要となります。

そのような中、今年3月に文部科学省が公示した2020年度から施行される「学習指導要領」※では、小学校で「プログラミング教育」が必修化されることが示されました。

プログラミングとは、コンピューターを動かすための命令(指示)を作成することです。このプログラミング教育により、前述の「情報手段の主体的活用」に加え、「論理的に物事を考えていく力」(プログラミング的思考)を伸ばすことが期待されています。

(※)小中学校で教える必要はない最低限の学習内容を定めたもの。社会状況を踏まえながら、ほぼ10年おきに改訂されています。

**Keyword 「プログラミング」**

スマートフォンをはじめ私たちの身の回りにあるすべてのコンピューターは、「プログラム」で制御されています。ひとつひとつの単純で短い単語を正しい順番で並べて指示すること(プログラミング)で、コンピューターに複雑な動作を命令することができます。

【特集】

# 「ICT教育」で できた! わかった! をもっと!

町内の4小学校と2中学校では、今年9月から、ICT機器を活用した授業が本格的に開始されました。タブレットの1人1台配備をはじめとする機器の整備や、クラウド(インターネット空間)技術を利用した教材制作ツールの導入など、その教育環境は県内でも先進的な取り組みとなっています。

本号では、町が取り組むICT教育「川根本町モデル」について、その特徴と必要性について紹介します。